

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【尾間木小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	本年度取組2年目となった、家庭学習週間やスキルアップタイムの取組を継続して、児童にも定着している。基礎学力の向上を目指して来年度も継続して行っていく。 国語科で課題となっている「主語と述語」「修飾と被修飾の関係」については、様々な場面で取り上げて児童が繰り返し触れていくことができるようにしていく。
思考・判断・表現	本年度、学習中での対話のねらいや振り返りの観点を児童に示すことを継続している来年度も引き続きこのスタイルを継続していく。また、学校課題研究のテーマ「自分の考えをもち、表現できる子」の育成の3年目となるので、自分の考えをもち学習に生かしていけるように、学校全体で授業改善に取り組み、指導を行っていく。また対話については、必要感をもって取り組めるよう、学習の場面で児童と共に課題設定をしたり手立てを考えたりして指導を行っていく。

①		今年度の課題と学力向上策	
		学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能		＜学習上の課題＞さいたま市の学習状況調査の結果より、学年により差はあるが、全体的に国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」、算数「図形」に課題が見られる。	⇒ ①全校で月に1回家庭学習週間を設け、家庭の協力も仰ぎ、児童自身が計画を立て、学習に向かう態度の育成と基礎・基本の定着を図る。【日々の授業・宿題】
		＜指導上の課題＞基礎的な学習内容を積み重ね、系統を意識した指導の必要がある。	⇒ ②ICTを活用した学習により、一人ひとりが実感したり自分のペースで学習したりして学習内容の定着を図る。【日々の授業】 ③学校全体の児童の傾向を教職員で共有し、課題を意識した授業改善に務める。【日々の授業】
思考・判断・表現		＜学習上の課題＞「対話的な学び」に重点を置き、自分の考えをもち表現できることを意識した授業を行っている。自分の考えをもつことに個人差が見られる。	⇒ ①学校課題研修「対話的な学びを重点として」の2年目は、「自分の考えをもち、表現できる子」を追究し、授業展開を工夫する。【年1回各学年で研究授業・公開授業を実施】
		＜指導上の課題＞学校課題研修で作成した対話の表や振り返りの表を効果的に活用した授業展開を継続し身に付けていく必要がある。	⇒ ②スキルアップタイムを活用し、少人数グループでの意見の出し合い、音声言語の活動、考えを記述する活動を積み重ね、授業でも活用する。【スキルアップタイム、日々の授業】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	A	①年間を通して、全学年において家庭学習週間を毎月実施できた。取組も2年目となり定着してきたので、家庭にも協力していただき来年も継続していく。 ②ICTを活用した授業については、さいたま市学習状況調査の質問紙の結果より、低学年85%、中学年85%、高学年では94%であり、児童はタブレットを使って調べたりまとめたりしていると回答している。 ③年間を通して、計画的に学校課題研修として研究授業を行ったアンケートを実施して授業改善に生かしたりできた。来年度も継続していく。
思考・判断・表現	B	②互いの考えを伝え合う活動をスキルアップタイムや授業で取り組んでいる、少人数の意見の出し合いや、音声言語の活動、考えを記述する活動を継続する。 ③示された情報から必要な情報を見付ける力については、中間期見直しに挙げ取り組んだが、さいたま市学習状況調査の結果でも引き続き課題となっているので、さらに取組を充実させていく必要がある。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の知識・技能にかかわり県の正答率を下回ったのは、情報の関係付けの仕方、図などによる語句の関係の表し方を理解したうえで適切なものを選択する問題であった。文章と図を関連付けて読み取ることが課題であったと考えられる。複数の資料を読み取ることが他教科の学習でも必要となる力であるので、課題として捉え、教科等横断的に生かす意識をもち学習を展開していくことが望まれる。 算数では、県の正答率をほぼ上回っているが、1問「測定」のはかりの目もりを読む問題のみ正答率が下回った。その他、数直線の目もりを分数で書く問題の正答率が低く、どちらも1目もりが表す大きさを読み取ることが求められている。前学年までの学習内容が定着していないので、繰り返し問題に取り組むことで、身に付けていくことができると考えられる。
思考・判断・表現	国語ではどの問題も県の正答率を上回っている。その中で、無回答率が高い問題が1問あった。4つの資料を読み条件に合わせて自分の考えを記述するものであった。 算数の思考・判断・表現にかかわり、県の正答率の値は上回っているが、正答が少ない問題として「データの活用」「数と計算」の分数に課題が見られた。データの活用問題では、2つのグラフがそれぞれ何を表しているかを判断すること、文章で聞かれていることを関連付けて考えることが必要となる。もう1問は、文章を正確に読みとり、複数出てくる数字の中から必要な情報を判断して異分母分数の計算をする問題であった。何を問われているか理解できない児童が多く見られた。国語・算数に限らず、様々な場面において、示されている情報は何を表しているのかを正しく把握する力が求められる。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、「読むこと」の領域においては昨年度と比較しても概ね良好であった。「話すこと・聞くこと」「書くこと」については、学年によってばらつきがあるが、昨年度と同様に主語と述語の関係や、修飾と被修飾の関係に課題がみられる学年が多い結果となった。この結果を課題として把握して指導につなげることを引き続き大切にしていきたい。 算数では、全学年を通してどの問題においても県の平均を上回る結果となった。どの領域においても昨年度と比較して数値が向上している。昨年度、課題として挙げられていた「問われていることを読み取る力」が、国語の校内研究によって身に付いてきた成果と考えられる。
思考・判断・表現	国語では、中学年は市平均と比べてほぼ同等の正答率であった。また、4年生に関しては、昨年度の結果と比較して向上が見られた。高学年については、「話すこと・聞くこと」に関わる問題に課題が見られる。高学年の正答率が低い問題の共通点としては、複数の文章の中から必要な情報を読み取ることに課題が見られる。国語という教科に限らず、複数の資料が提示された際に、それぞれが何を示しているのか、自分が必要としている情報は何かをあるのかを読み取る力を強化していくことを教職員で共通理解した。 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。」の質問に対する肯定的な回答の割合は9割を越えているので、主体的に学ぶ意欲が身に付いていると考えられる。

③	中間期報告	中間期見直し
評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	①家庭学習週間は2年生以上で家庭の協力をいただき、毎月実施できた。1年生についても予定通り2学期から実施していく。 ②ICTを活用した学習については、視覚的に分かりやすくなり記録したり、個々の支援に活用したりしている。自分のペースに合わせた学習の活用については、効果的な活用を進め、学習内容の定着に生かしていく。 ③学校全体の児童の傾向を教職員で共有するための研修を設けたり、学校課題研修にかかわるアンケートを実施し児童の実態把握に努めた。	①月1回の家庭学習週間の実施を継続する。【日々の授業・宿題】 ②ICTを活用した学習を継続する。【日々の授業】 ③学校全体の児童の傾向の共有や授業改善を継続する。【日々の授業】
思考・判断・表現	①「自分の考えをもち、表現できる子」を育成するため国語の学習の中で単元を選択して教材研究を行ったり、対話カード(授業やスキルアップタイムで活用)の作成を行ったりした。 ②毎週水曜日の朝の時間にスキルアップタイムを位置付け、音声言語の活動と対話の活動について学年ごとに扱う教材を選択し活動を積み重ねている。	①教材研究を行った単元の研究授業を実施する。【2・3学期の中で各学年1授業】 ②スキルアップタイムや授業で、少人数の意見の出し合いや、音声言語の活動、考えを記述する活動を継続する。【スキルアップ、授業】 ③示された情報から必要な情報を見付ける授業展開を工夫する。【授業】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)